

## 岩手県立大学看護学部における国際交流活動の展望

安藤広子<sup>1)</sup>, 野口恭子<sup>1)</sup>, 千田睦美<sup>1)</sup>, 遠藤良仁<sup>1)</sup>,  
蛸崎奈津子<sup>2)</sup>, 武田利明<sup>3)</sup>, ダガン・スーザン<sup>4)</sup>, 関屋一博<sup>5)</sup>

## Prospects for international exchange activities of Iwate Prefectural University Faculty of Nursing

Hiroko Ando<sup>1)</sup>, Kyoko Noguchi<sup>1)</sup>, Mutsumi Chida<sup>1)</sup>, Yoshihito Endo<sup>1)</sup>,  
Natsuko Kakizaki<sup>2)</sup>, Toshiaki Takeda<sup>3)</sup>, Susan Duggan<sup>4)</sup>, Kazuhiro Sekiya<sup>5)</sup>

キーワード：国際交流，国際看護教育，海外研修，国際交流協定

### はじめに

看護学部国際交流委員会が，平成24年度に独立した委員会として復活して設置された。国際交流委員会の活動方針として，「国際交流委員会は，看護学部・看護学研究科の学生および教員の国際的な教育研究活動を支援することを目的とし，本学部の海外協定校を中心とした交流の促進を図るとともに，国際交流に関する情報提供を行なう」こととした。そして，これまでに看護学部として実施してきた国際交流活動を継続しながら，委員会としての活動の方向性を検討していくことになった。

そこで，現在の国際交流活動の現状と経緯の整理および国際交流活動に関するアンケート調査を行なったので報告する。

### 1. 国際交流活動の現状

岩手県立大学の教育研究の特色の一つに，国際的な教育研究活動をあげ，外国人留学生の受け入れなど多様な国際交流や教員の海外派遣等教育研究における交流，また英語をはじめとする7カ国の外国語教育を推進している。本学における国際交流に関する活動は，表1のとおりである。

### 2. 看護学部における国際交流活動の経緯

1) これまでに実施した学生のための海外短期研修

看護学部としての国際交流活動は米国のノースカロライナ州立大学ウィルミントン校と，イースタン・ワシントン大学との大学間協定に基づいてワシントン州立大学との交流を行なっている。これまでに実施した学生のための海外短期研修は，表2のとおりである。1999年のドイツへの研修は，ドイツ語教員の計らいで実現したものである。

2) ノースカロライナ州立大学ウィルミントン校(UNCW)との交流活動の経緯

UNCW交流は，1998年のバーチャルユニバーシティ構想による4大学マルチシステム国際遠隔授業を契機に開始した。2000年に看護学部国際交流委員会が発足し，国際遠隔授業を企画実施。2000年9月には本学から学生と教員が短期研修訪問を実施した。

2002年度からはUNCWと本学と2校間での全4回の遠隔授業となり，2003年にUNCW看護学部と本学看護学部との学部間協定を締結した。遠隔授業の内容は教員による講義であったが，2005年の遠隔授業からは学生交流を主眼とした双方の学生によるプレゼンテーションへと内容を大きく変更した。また，2006年2月にはUNCWからPerri J. Bomar教授とJeanne Kempainen教授および5名の学生の訪問を受け入れた。

2006年度の学部委員会の再編成により国際交流委員会が廃止となり，UNCWとの交流は学

受付日：平成24年10月15日 受理日：平成24年12月18日

<sup>1)</sup> 看護学部国際交流委員，<sup>2)</sup> 国際看護論科目担当，<sup>3)</sup> 看護学部長，<sup>4)</sup> 共通教育センター英語科目担当，<sup>5)</sup> 事務局教育学生支援G国際交流担当

表 1. 国際交流に関する活動

## 【国際交流協定機関】

国名	協定機関 (大学等)	締結年
中華人民共和国	河北省社会科学院	2001
	大連交通大学	2003
	朝陽科技大学	2011
大韓民国	慶尚大学校 (Gyeongsang National Univ.)	2001
	又松大学校 (Woosong Univ.)	2006
アメリカ合衆国	イースタン・ワシントン大学	2002
	ノースカロライナ州立大学ウィルミントン校	2002
	看護学部	
英国	プリマス大学 健康・教育・社会学部	2012

## 【海外派遣プログラム】

プログラム名称	対象者	日程	派遣先
夏季短期海外研修 (韓国コース・中国コース)	全学生	8月～9月 2週間程度	又松大学校 (韓国) 大連交通大学 (中国)
看護学部 国際看護論 演習海外研修	看護学部生	2月～3月 2週間程度	ワシントン州立大学他
社会学部 フロンティア 福祉実習海外研修	社会福祉学部生	9月頃 1週間程度	鐘路老人総合福祉館他
ソフトウェア情報学研 究科 米国派遣研修	ソフトウェア情 報学研究科生	8月頃 2週間程度	イースタン・ワシントン大学
盛岡短期大学 国際文化学科 国際文 化理解演習海外研修	国際文化学科生	韓国コース 9月 2週間程度	慶熙大学校
		米国コース 2月～3月 2週間程度	ノースシアトル コミュニティーカレッジ

## 【看護学部遠隔授業】

国名	協定機関	備考
アメリカ合衆国	ノースカロライナ州立大学 ウィルミントン校	看護学部「国際看護論演習」 2回/年

(平成 24 年度学生便覧を基に作成)

生委員会 (現在の学生・就職委員会) の所掌事項となり、年 4 回の国際遠隔授業を 2009 年まで企画実施した。2009 年度に国際看護論演習が選択科目として新規科開講され、遠隔授業への参加が授業の一部として取り扱われることとなり、2012 年まで毎年継続している。

3) プリマス大学 (UP) との国際交流協定締結までの経緯

UP との国際交流協定は、平成 24 年 9 月に締結されたところである。教員がプリマス大学と関連医療施設で、1998 年と 2000 年に研修を受け、その研修指導者である Heather Skirton 教授が 2 回来学している。また、2009 年に助産学コースの Faye Doris 主任教員と Tina Wells 教員が来学している。その後の協定締結に向けては、表 3-1 のとおりである。



表2 これまでに実施した学生のための海外短期研修

年度 渡航先(渡航期間)	参加 学生数	教員数	研修内容 (引率教員、同行教員)
1999 ドイツ・Seniorenpflege und Seniorenwohnheim Bad Wimpfen 他 (1999.9/10-9/21)	20	2 (+1) ドイツ語 教員同行	老人保健施設、一般病院、リハビリテーション病院見学、 ドイツ介護保険に関する講義 (石井トク、千田睦美、ウヴェ・リヒタ)
2000 UNCW (2000.9/2-12)	10	2	UNCW 講義・実習参加、施設見学、 学生寮滞在 (荒木暁子、石田陽子)
2003 EWU&ICN (2004.2/27-3/9)	12	2	ELI 英語授業参加、ICN 講義・実習参加、 施設見学、看護教員宅に滞在 (塚田縫子、安保寛明)
2004 EWU&ICN (2005.2/25-3/8)	10	1	ELI 英語授業参加、ICN 講義・実習参加、 施設見学、看護教員宅に滞在 (野口恭子)
2005 EWU&ICN (2006.2/24-3/7)	8	2	ELI 英語授業参加、ICN 講義・実習参加、 施設見学、看護教員宅に滞在 (野口恭子、伊関敏男)
2006 EWU&ICN (2007.3/3-3/13)	5	2	ELI 英語授業参加、ICN 講義・実習参加、 施設見学、看護教員宅に滞在 (野口恭子、木内千晶)
2007 EWU&ICN (2008.2/29-3/11)	9	2 (+1) 英語教員 同行	ELI 英語授業参加、ICN 講義・実習参加、 施設見学、看護教員宅に滞在 (土屋陽子、野口恭子、ダガン・スーザン)
2008 WSU (2009.2/27-3/10)	9	2	WSU 講義・実習参加、施設見学、 看護教員宅に滞在 (土屋陽子、齋藤貴子)
2009	0	0	諸般の事情により研修中止
2010 WSU (2011.2/25-3/7)	16	2	WSU 講義・実習参加、施設見学、宿泊施設滞在、 週末ホームステイ (白畑範子、上林美保子)
2011 WSU (2012.2/24-3/5)	10	2	WSU 講義・実習参加、施設見学、宿泊施設滞在、 週末ホームステイ (上林美保子、千田睦美)

※ UNCW University of North Carolina Wilmington

EWU Eastern Washington University

ELI English Learning Institute

ICN Inter collegiate College of Nursing

WSU Washington State University

#### 4) これまでに実施した教員の海外研修

これまでに、多くの教員が研究助成費を活用しながら、世界各地での研修を行なっている(表3)。ここには、国際交流協定校での研修(表3-1)、がんプロフェッショナル養成プランの一環としての研修(表3-2)、岩手県立

大学学術研究振興財団の海外(研修)研究助成による海外研修(表3-3)のみを掲載した。

岩手県立大学学術研究振興財団は、本学が法人化する前にあったもので、初期の頃はその(研修)研究助成で1カ月～2カ月余の海外滞在研修を行っていた者もあった。

## 表3. これまでに実施した教員の海外研修等

表3-1 ■協定校■

渡航先 渡航期間	研修内容等 教員
チャペルヒル校 1999.9.7 - 9.10	看護基礎教育における地域看護実習の教育方法を学ぶ 工藤朋子、野口恭子、柴田千衣、石田陽子
チャペルヒル校 他 1999.10.25 - 11.1	米国ノースカロライナ州等における看護分野等の調査研究 菊池和子
ウィルミントン校 2001.9.18 - 9.28	米国大学における看護技術教育および米国のエンドオブライフケアの調査研究 菊池和子
ウィルミントン校 2006 年 3.	異文化における慢性疾患や進行性疾患に対する看護実践と、異文化においてスピリチュアリティに関係する行動様式や文化的環境について理解を深める 工藤朋子、石井真紀子、安保寛明、荻野大介

## 【プリマス大学 締結 2012 年】

渡航先 渡航期間	研修内容等 教員
プリマス大学 2001. 3.	大学間国際交流協定に向けた視察 野口恭子、石井トク、高橋章浩（事務局）
プリマス大学, Derriford Hospital 2011. 9.10 - 9.15	学部間国際交流協定に向けた視察および周産期医療施設見学 野口恭子、安藤広子、水野仁子、ダガン・スーザン（共通教育センター）、関屋一博（事務局）、多田玲子（研究科生）
プリマス大学 2012. 9.10 - 9.14	学部間国際交流協定締結 武田利明、野口恭子、ダガン・スーザン（共通教育センター）

表3 - 2 ■がんプロフェッショナル養成プラン■

「北東北における総合的がん専門医療人の養成」2007年～2011年

渡航先 渡航期間	研修内容等 教員
メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター 2009.8.31—9.4	米国におけるがん看護の実際を学ぶ 森一恵、工藤朋子 伊藤奈央、横浜優子（研究科生）
メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター 2010.10.11—10.15	米国におけるがん看護の実際を学ぶ 石井真紀子、安藤広子 天間麻姫（研究科生）
第 36 回米国がん看護学会年次総会 ダナ・ファーマーがん研究所 2011.4.28—5.1	米国における OCNS・NP の活動の現状を知る 森一恵、工藤朋子 竹内可愛（研究科生）

表3-3 ■岩手県立大学学術研究振興財団  
海外(研修)研究助成費  
1998年～2004年■

年度	助成を受けた教員数
1998	6
1999	7
2000	7
2001	2
2002	4
2003	1
2004	1

### 3. 国際交流に関するアンケート調査

#### 1) 調査目的

国際交流委員会では、国際交流の経験とニーズを把握し看護学部としての今後の国際交流のあり方について検討する資料とするため、質問紙調査を行った。

#### 2) 調査対象及び調査方法

調査対象は、看護学部全学生・看護学研究科院生および看護学部全教員である。看護学部と研究科の学生については学年別に配布、教員には一斉配布した。質問紙は国際交流委員会で作成し、看護学部拡大教授会での報告を行ったうえで配布した。回収は看護学部事務室に回収箱を設置し、投函するよう依頼した。

調査期間は平成24年6月18日～29日である。

#### 3) 倫理的配慮

調査は無記名で行い個人名が特定されることはないこと、調査への協力は任意であり協力の諾否により不利益を被ることはないことを調査用紙において書面で説明した。

#### 4) 結果

看護学部学生・看護学研究科院生361名に配布し回収数は128部（回収率35.5%）、看護学部教員は50名に配布し回収数16名（回収率32.0%）であった。

##### (1) 看護学部全学生・看護学研究科院生の結果

所属・学年と、国際交流の経験、国際看護や国際交流として興味・関心のあるテーマ、関心のある地域、国際看護に関する夢や希望についての回答は表4のとおりである。本調査では回答に占める学部2年、研究科博士前期および後期課程に所属する学生・大学院生の割合が低

表4. 対象者の属性および国際交流の経験と関心  
n=128

質問項目	n	%*
所属・学年		
学部1年	23	18.0
学部2年	9	7.0
学部3年	41	32.0
学部4年	45	35.2
研究科博士前期課程	7	5.5
研究科博士後期課程	3	2.3
これまでの国際交流の経験(複数回答)		
国内での留学生との交流	25	19.5
遠隔授業	22	17.2
短期留学	11	8.6
国際学会の参加	3	2.3
長期留学	0	0.0
興味・関心のあるテーマ(複数回答)		
海外の看護活動	87	68.0
国際協力活動	41	32.0
国際的な健康問題	36	28.1
海外の看護教育	36	28.1
興味・関心のある地域(複数回答)		
ヨーロッパ	56	43.8
北アメリカ	50	39.1
アフリカ	46	35.9
アジア	36	28.1
南アメリカ	23	18.0
オセアニア	13	10.2
国際看護・国際交流への夢や希望(複数回答)		
海外留学してみたい	47	36.7
将来、海外で看護職として勤めてみたい	21	16.4

\*編入学生は学部3年または4年に含めた。

所属学年は対象者における各学年の占める割合を示す。

その他の項目は対象者における選択者の割合を示す。

く、主に学部3年および4年の学生の意見が比較的強く反映している結果となった。

本学の看護学部全学生・看護学研究科院生の国際交流の実態では、「国内における海外からの留学生との交流」や、「通信回線を結んでの授業（遠隔授業）」は国内にいながら行うことができる交流であり、経験があると回答した学生が多かった。興味・関心のあるテーマとして



は「海外の看護活動」が最も多く、「国際協力活動」が続いた。国際交流として興味・関心のある地域では「ヨーロッパ」と「北アメリカ」に次いで「アフリカ」が多く、国際協力活動への関心が高いことが影響していると思われる。国際看護に関する夢や希望については「海外留学」が多かったが、「将来、海外で看護職として勤めてみたい」という回答も16.4%あった。

本学（本学部）の国際交流の認知度、参加経験、参加希望については表5に示したとおりである。認知度、参加経験、参加希望のすべてにおいてUNCWをあげた割合が最も高く、年2回行われている遠隔授業について学部に周知されており、参加しやすい交流であることが明らかとなった。

国際交流協定校と交流してみたいこと（表6）としてはいずれの大学においても「ホームステイ」が最も多く、「共同研究」は1割程度で最も少なかった。

看護学部生のみについて、国際看護論および国際看護論演習を既に履修済みである学年（3，4年生）と未履修または現在履修中である学年（1，2年生）に群わけして分析すると、1，2年生より3，4年生のほうが「国際看護や国際交流への興味・関心」が低い傾向があった。また、国際交流の経験がある者とならない者で「国際看護や国際交流への興味・関心」や「将来の国際看護への夢や希望」に差があるか比較したが、経験の有無で有意な差は見られなかった。国際看護論を履修すると国際看護への興味が強くなることが期待されるが、学年の進行に伴い興味・関心が薄れるとも考えられる結果であった。

しかし、短期留学経験者は国際協力活動に興味・関心があると回答した割合が高く、海外の看護や生活を経験すると国際的な活動に興味を持つ可能性が示唆された。

海外の看護教育に興味・関心があると回答した学生のほうが、遠隔授業の経験者の割合が高いことも明らかとなり、海外の看護学生と交流したいという学生の興味・関心に応えるプログラムとして遠隔授業は有効であることもあきらかとなった。

## (2) 教員の結果

国際交流の経験（表7）として最も多かったのは「国際学会の参加」と「遠隔授業」であった。

国際交流協定校と交流してみたいこと（表

8）はいずれの大学においても「短期留学派遣」が最も多く、「ホームステイ」が最も少なかった。

## 4. 国際交流活動の今後に向けて

今回の調査から、多くの教員が多様な地域での海外研修を体験していること、国際的な視野からの研究活動に関与している状況が見えてきた。しかし、学部内では教員個々の見知を共有する機会がもてていなかったことが明らかとなったことから、次のような検討が必要と考える。毎年度に、海外研修や共同研究、国際学会における専門分野の状況などを国際交流活動としての報告会や報告書にして、学部教員が共有できるようにする。

また、国際交流協定を締結している大学との活動については、一定期間における両者間の交流活動の目標や実施計画を立て、実施・評価をし、更新していく必要があろう。特に、WSUへの海外研修は、教科目単位として実施することから、目的および教育展開方法や評価についての検討が急務となっている。さらには、国際交流学部間協定に向けた検討の必要性についても意見が出されている。

また、10周年を迎えたUNCWとの遠隔講義のあり方についても、再検討の時期にきているように思われる。

国際交流委員会では、学生や教員の国際交流活動を促進するための資金として、これまでの拠出先の予算枠の拡大や科学研究費等の外部資金の獲得を図るようにする。その一方で、看護学部の『CARE-10プロジェクト』（平成24年度学長裁量経費【教育力強化枠】により実施開始をした「看護学部の新たな人材育成10ヵ年計画」）の中に、国際交流及び海外研修（研究）枠を企画することが提案されている。

国際交流委員会は、看護学部の教育理念・教育目標にある「国際的視野をもって活動できる能力を培う」を達成するために、教務委員会や学生・就職委員会と連携し、看護学や医療の他、広く社会の動向をみながら、その教育体制や教員の研鑽のための支援活動を展開していく必要があろう。

最後に、この報告書をまとめるにあたり、ご協力をいただきました学生及び教職員の皆様に感謝を申し上げます。

表5. 本学（本学部）の国際交流の認知率、参加経験率、参加希望者の割合  
n=128

	ノースカロライナ大学		ワシントン州立大学		プリマス大学	
	n	%	n	%	n	%
認知率	95	74.2	73	57.0	36	28.1
参加希望者	53	41.4	48	37.5	50	39.1
参加経験率	17	13.3	9	7.0		

\*プリマス大学とは協定締結したが交流が開始していない段階での調査であったため「参加経験」については調査していない。

表6. 国際交流協定校と交流してみたいこと（複数回答可）  
n=128

	ワシントン州立大学		ノースカロライナ大学		プリマス大学	
	n	%	n	%	n	%
ホームステイ	42	32.8	44	34.4	42	32.8
合同授業	41	32.0	42	32.8	36	28.1
短期留学受け入れ	36	28.1	34	26.6	34	26.6
短期留学派遣	32	25.0	32	25.0	35	27.3
共同研究	14	10.9	13	10.2	15	11.7

表7. 国際交流の経験（複数回答可）  
n=16

	n	%
国際学会参加	10	62.5
遠隔授業	10	62.5
短期留学	7	43.8
国内での留学生との交流	5	31.3
長期留学	1	6.3

表8. 国際交流協定校と交流してみたいこと（看護学部教員 複数回答可）  
n=16

	ワシントン州立大学		ノースカロライナ大学		プリマス大学	
	n	%	n	%	n	%
短期留学派遣	10	62.5	15	93.8	10	62.5
短期留学受け入れ	8	50.0	10	62.5	9	56.3
合同授業	7	43.8	10	62.5	7	43.8
共同研究	7	43.8	9	56.3	7	43.8
ホームステイ	3	18.8	4	25.0	2	12.5